

実施クラス				実施日			実施保育者名
5	歳児	さくら	組	11	月	4 日 (火)	千葉

● 実施計画

活動テーマ		
たべもの ～食べる～ なぜ食べるの？		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
日常生活の中で「お菓子だけじゃだめなの？」といった自分の体験に基づく疑問を持ち、食べることで体の変化とのつながりに関心を示している。うんちの種類に関する絵本を読み、何を食べたら健康な状態かなど食べ物と体の関係について興味を持ち、図鑑で人体について見たりしている。		
活動スケジュール		環境設定 ・ 準備物
時間	内容	
10:00~10:10	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体を調べてみよう提案する。 自分の体を観察してみる。 目に見えないからだの中を意識してみる。 	【環境設定】 <ul style="list-style-type: none"> 安全に探究できるよう環境を設定する。 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 正解を求めるのではなく、予想し考える態度を大切にする。 【活動使用教材】 <ul style="list-style-type: none"> 食べることにに関する絵本 鏡 ホワイトボード ホワイトボードマーカー
10:10~10:30	<ul style="list-style-type: none"> 昨日食べたご飯が、今、体のどこにあるか問いかける。 ごはんを食べるとどうなるか話し合ってみる。 ごはんを食べないとどうなるか話し合ってみる。 	【事前準備】 <ul style="list-style-type: none"> 体を動かしたりできるようにスペースを設定しておく。
10:30~10:40	<ul style="list-style-type: none"> 話し合っ分かったことや発表を聞いての感想を発表する。発表の内容をホワイトボードにまとめていく。 なぜ食べるのか、食べることで体の関係を確認する。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<ul style="list-style-type: none"> 体について知っていることを発表し、子どもの気付きや発言内容をホワイトボードにまとめた。 絵本を読み、体と食べ物の関わりを深めるきっかけとした。 昨日食べたごはんは、今、体のどこにあるか問いかけ、食べ物を食べた後、どうなるのかを子どもが予想し発言する。 ごはんを食べるとどうなるか話し合う。 ごはんを食べないとどうなるか話し合う。 気づきや調べた内容を共有し合い、食べることで体の関係を確認した。 	【子どもの姿・声】 <ul style="list-style-type: none"> 「お腹が鳴るのはお腹が空っぽになるからかな」「食べ物が体の中で起きる時間なのかも」とお腹が鳴る理由について考えていた。 「体の中の時計も関係しているんじゃない」と知っている知識や聞いた言葉を友達に共有しながら考え進めていた。 【保育者との関わり】 <ul style="list-style-type: none"> 子どもの発言を「そう思ったんだね」「確かにそういう考えもあるね」と受け止めたうえで、「どうしてそう思うの？」と考え進めていく楽しさを感じられるようにした。 普段の生活や園での生活の流れを振り返りながら話進めていくことで考えやすいように支援した。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちは体について知っていることを発表していくと普段図鑑を見ていたこともあり、内臓について知っている児も多く様々な臓器が体内にあることを共有できた。さらにその動きはなんだろうと保育者が問いかけることで体内時計や消化など知っているワードが出てきて考えていく楽しさを感じられているようだった。 食べ物や自分のからだというテーマは今までのテーマよりも身近に感じやすく一人ひとりが真剣に考えて発表する姿が見られた。 	特に、自分のことに直接つながることにはとても興味を示しやすく、保育室に図鑑もあったこともあり、知っていることは堂々と発表できたと思われる。体内時計のことや、消化のことなど思っていた以上に子どもたちなりに知っていることもあり、知っている児からの発信がよい刺激になるすすめ方も期待したい。

実施クラス	実施日	実施保育者名
5 歳児 さくら 組	1 月 8 日 (木)	千葉

● 実施計画

活動テーマ		
アート～ふしぎな絵～ 見る向きで変わる絵		
活動テーマに関する 日頃の興味関心について		
友達と一緒にトリックアートの本を見ながら、錯覚を体験する不思議さを感じながら、なぜそう見えるのかも一緒に考えていくことを楽しんでいる。		
活動スケジュール		
時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:50～11:00	<ul style="list-style-type: none"> トリックアートの絵を見ながら、見え方の違いや目の錯覚について感じたことを友達と話しあえるようにする。 トリックアートの見本を提示し、「どう見えた？」と問いかけ、角度を変えて観察し、見え方の違いに気づく。 「反対から見ても同じかな？」と疑問を投げかける。 「自分でも作れると思う？」と問いかけ、製作への興味を引き出す。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもが見本を見やすいように環境を整える。 各自が製作しやすいようにスペースを確保する。 ハサミを扱う前に、友だちとの感覚を聞く。 ハサミの注意点を子どもたちと確認してから行うようにする。 必要に応じて、補助を行い、作業の進行を見守る。 子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作る。 正解を求めるのではなく、予想し考える態度を重視する。 <p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○描いた絵を貼る台紙(A4の画用紙) ○絵を描くための画用紙(カメとクジラの絵がかいてある紙) <p>【子ども用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○描いた絵を貼る台紙(A4の画用紙) ○絵を描くための紙(コピー紙2枚) ○クレヨン ○ハサミ <p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見本づくり:あらかじめ見本を作っておく
11:00～11:25	<ul style="list-style-type: none"> 絵を描くための紙を配布し、2枚の枠内にそれぞれ違う絵を描く。 「どうやったら2つの絵が見えるかな？」と考える機会を作る。 線の通りに紙を切り、折り目に沿って貼りつける。 交互に貼ることで、角度を変えたときの見え方を試す。 	
11:25～11:30	<ul style="list-style-type: none"> 完成した作品を見せ合いながら、「どう見えた？」と発表する。 見え方が変わる仕組みについて話し合う。 「絵が立体になるとどう見えるかな？」と投げかけ、次の探究への意欲につなげる。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>トリックアートの不思議に興味を持ち、自分でも作れるのかと試行錯誤しながら活動に取り組んだ。</p> <p>自分で描いた絵を錯覚を利用して表現し、完成した作品を友達と見せ合いながら「どう見えた？」と話し合った。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こっちから見ると違う絵に見える！」と驚く声が上がった。 ・「みんなのも見てみたい」と自分のだけでなく、友達の作品も何度も角度を変えて確認する姿が見られた。 ・「お家を持って帰ってパパとママにも見せたい」「持って帰って同じように違う絵でも作ってみたい」と保護者に見せたい気持ちや再度トリックアートを自分で作ることを楽しみたいという言葉が出てきた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「向きを変えたらどう見えるかな」と様々な視点でみることができるよう促した。 ・「見る向きで違う絵が見えるのは不思議だね」と不思議さに気が付くことができるように関わった。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは視覚の不思議に興味を持ち、楽しみながら取り組んでいた。特に、完成した作品の見え方を確認し合いながらクラス全員の作品を見比べて見ることも楽しんでいた。 ・実際に自分の力でトリックアートを作ることができたことに達成感や楽しさを感じていた。 ・作業工程の中で、貼る位置に難しさを感じていた場面もあったが試行錯誤しながら作り上げたことで達成感を感じてからトリックアートを楽しむことができていた。 	<p>子どもたちは、見る向きを変えることで絵の印象が変わる不思議さを、自らの作品を通して実感していた。完成した作品を友達同士で見せ合い、角度を変えながら確認する姿から、視覚の不思議を楽しみながら探究している様子がかうかえた。</p> <p>保育者が視点を変えて見ることを促し、不思議さに気付けるよう関わったことで、子どもたちの発見が深まり、対話も広がっていた。</p> <p>また、試行錯誤しながら作品を完成させた経験により、達成感や自信を感じ、家庭でも再度取り組みたいという意欲へとつながっていた。</p> <p>今後は、子ども一人ひとりの気付きや工夫を大切にしながら、表現の幅を広げ、さらなる探究へと発展させていくことが期待される。</p>

実施クラス				実施日			実施保育者名	
5	歳児	さくら	組	2	月	24	日 (月)	千葉

● 実施計画

活動テーマ		環境設定 ・ 準備物
<p>おかね ～おかねってなんだろう～ 必要なもの？ 欲しいもの？</p>		
<p>活動テーマに関する 日頃の興味関心について</p>		
<p>前回の買い物体験で、お金の量には限りがあるため、欲しいものを全ては買えないことを実感した。その経験から、「欲しいもの」と「絶対に必要なもの」を区別し、優先順位をつけてお金を使うという、より実践的な課題に関心が高まっている。</p>		
時間	内容	環境設定 ・ 準備物
10:40～10:50	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の活動を振り返り、お金の量には限りがあること、何を一番買ったかを確認する。 ・「お熱が出て病院に行くとき」を例に、絶対に必要なものと、無くても大丈夫なものをみんなで考えてみる。 ・具体的な場面設定で必要なものと買わないもの考えるグループ活動につなげる。 	<p>【環境設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自由に発言できる雰囲気を作り、一人ひとりの意見を尊重し、受け止める。 ・正解・不正解を明らかにするのではなく、多様な捉え方や考える姿勢・態度を大切にする。 <p>【活動使用教材】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カード(生活用品、食べ物、玩具などが描かれたカード) ・模造紙 ・ホワイトボード ・ホワイトボードマーカー
10:50～11:10	<ul style="list-style-type: none"> ・「カレーライスを作るための買い物」の状況と架空の所持金を設定し、各グループで「必要なもの」と「欲しいけど買わないもの」を話し合い、買うものを決める。 	<p>【事前準備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商品カードを作成する。カードには値段と名前、イラストや写真を分かりやすく記載し、生活用品、食べ物、お菓子、玩具、移動手段などさまざまな商品を想定する。
11:10～11:25	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが、決めた「必要なもの」「欲しいけど買わないもの」と、その理由を発表する。 ・他のグループの発表を聞いて気づいたことや感じたことを発表する。 ・人によって必要なものや欲しいものが違うことを考察する。 ・お金がたくさんあれば欲しいものがたくさん買える、ではどうすればお金が得られるのか、次回探究することを伝える。 	

● 実施報告

探究活動の実践内容	活動中の子どもの姿、声、保育者との関わり
<p>・導入では、お金には限りがあることを再確認した後、「お熱が出て病院に行くとき」を例に、みんなで絶対に必要なものと無くても大丈夫なものを考えた。</p> <p>・展開では、「カレーライスを作るための買い物」という具体的な状況と架空の所持金を設定し、グループワークを行った。子どもたちは商品カードを使い、「お肉は絶対必要だけど、お菓子は我慢しよう」など、活発に話し合い、何をかうかの優先順位をつけた。</p> <p>・まとめでは、各グループが発表し、なぜその商品が必要だと判断したのか、なぜ欲しいけど買わないと決めたのか、その理由を説明した。他のグループの意見を聞くことで、「人によって必要なものや欲しいものは違う」という多様な価値観に気づく機会となった。</p>	<p>【子どもの姿・声】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「デザートにアイス買おうよ」「朝ご飯用に食パンを買おう」など実際に買い物行ったときに家庭で会話をしていることを同じように言葉にしていた。 ・「お金が余ったから他にも必用そうな物を買うのはどう？」と予算とお金について考えて発言する姿が見られた。 ・「ピアノがあったらパーティーできるね」と品物を見て想像力を膨らませていた。 ・頼まれた物以外に欲しい物を買おうとしていると「だめだよ、必用なものだけにしようよ」と反対の意見も言葉で伝えることができていた。 <p>【保育者との関わり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算機使ってみる？とお金の計算について援助し臨機応変に計算機を用意していった。 ・お金が余るけどどうすると言葉を投げかけることで子どもたちが自分たちで話し合いをしてグループワークをできるように進めていった。 ・一人ひとり意見を受け止め、正解や不正解はなく考えて実践してみることができるようにした。

● 振り返り

保育者側の気付き	園長からの感想・助言内容
<p>・必用な物と必要ではない物について一人ひとりじっくりと考えていた。特に自分は必要だと思っても友達から違う意見が出てきたことで自分の考え以外のことも受け入れることができ、グループワークに真剣な姿を見せていた。</p> <p>・「朝ご飯用に」「ジュースよりもお茶と牛乳のほうが栄養があるからジュースはやめようよ」と栄養や生活のことを考えて品物を決めており、普段家庭で買い物にいつているときのことを参考にしている様子も見られた。</p>	<p>これまでの買い物体験を踏まえ、「必要なもの」と「欲しいもの」という視点から実践的な活動となっていた。具体的な場面を設定することで、子どもたちが生活経験と結び付けながら主体的に考え、優先順位をつけて選択する姿が家庭での様子も見られてよかった。</p> <p>また、グループでの話し合いを通して、自分の考えだけでなく友達の意見にも耳を傾け、様々な考え方を受け入れている姿がうかがえ、これまでの話し合い活動での成長を感じた。保育者が問いかけや環境を通して子どもたちの思考を支え、一人ひとりの意見を大切にしている関わりも子どもたちにとっての成長に繋がっていると思われる。</p> <p>今後も生活や家庭での経験と結び付けながら、お金の価値や使い方について考える探究活動を継続し、子どもたちの主体的な学びにつなげていくことを期待する。</p>